

はじめに

本書を手にとってくださり、どうもありがとうございます。

鹿児島にあるラ・サール中学・高等学校にて英語を教えております、丸山晃と申します。

皆さんは本が好きですか。この本を手にくださった方の中には、本が大好きという方も多いのではないかと思います。一方で、「本を読みたいけれどどんなものを読めばいいのかわからない」とか「本ってどう読めばいいの?」といった疑問の答えを探して、とりあえず表紙をめくってみたいという方もいらっしゃるでしょう。

この本の内容を簡単に紹介しておきますね。本書はいわば「私的読書案内」です。東日本大震災で被災した町を自転車で旅したり、フルマラソンに挑戦したり、結婚したり娘が生まれたり、そういう具体的な人生の文脈の中で、「私はどんな本をどんなふうに進んで読んできたのか」が綴られています。ですから、いわゆる「書評集」ではないし、「読書術」を解説した本でもありません。

私は、本というのは、「読みたいときに読みたいものを読む」のが基本だと思っています。興味が無いのに、無理して読もうとしても続きません。なんでもそうですが、やらされてやってもつまらないですよ。何事も主体的に取り組んでこそおもしろいわけで、「この本を読んできなさい」と指示

された途端にその本を読む気が失せた、という経験がある人も多いのではないのでしょうか。

とはいえ、私は教員です。自分の受け持つ生徒はもちろん、多くの中高生の皆さんに、「なるべくたくさん読書に触れて読書を楽しんでほしいなあ」とやはり思うわけです。なぜなら、読書というのは一番基本的な学びの形の一つであり、読書ができればたいいことは自分で勉強できるようになるといってもよいからです。

「読書の楽しさを生徒たちと共有したい」という想いで、10年前に私はある取り組みを始めました。それは、月に1回、教員から生徒たちへの読書案内冊子を発行することです。「生徒にとって身近な大人である私たち教員が、どんな本を読み、何を思ったのかを伝えていくことで、生徒たちの中に読書をより楽しむ雰囲気が出ていくのではないか」と考えました。その冊子のタイトルが、「読とるまんぼう」であり、「旅をする本」です。前者は、私が初めて中学1年から高校3年まで持ち上がった65期生（2010年入学・2016年卒業）に向けて発行しました。後者は、現在も担当している71期生（2016年入学）に向けて発行しています。

私が最初に紹介した本はミヒヤエル・エンデの『モモ』でした。あれから10年。読書案内冊子の発行は今も続いており、そのためだけではないと思いますが、読書が好きな生徒がたくさん育っていると感じます（なお、私と現代文の先生は毎回原稿を書き、それ以外の教科の先生方には年1〜3回くらい寄稿していただくというスタイルで作成しています）。

本書は、その10年の歩みを辿るものです。書籍化にあたり、私がこれまでに書いた文章から80を選んで、10のテーマに沿って編集し直しました。一つの文章で1冊の本を紹介していますので、本書で紹介される本は80冊ということになります。中高生の皆さんが読んでくださることを念頭に、すべての文章に加筆・修正を施しました。しかし、内容上、自分の生徒に宛てたものをあえてそのまま載せている箇所があることをご了承ください。

「旅をする本」というタイトルについて少し触れます。すでにお気づきの方も多いかと思いますが、写真家でありエッセイストでもあった星野道夫さんの代表作の一つ、『旅をする本』（文藝春秋）を意識してつけました。私は学生時代、星野さんの著書に感動し、アラスカを一人で旅しました。それほかに、星野さんの文章が好きであり、内容に共感を覚えたのです。読書案内を発行するにあたり、大好きな星野さんの著作のタイトルを借用させていただきました。誰かが読んで感動した本が別の誰かの手に渡り、やはりその人にも影響を与えていく。そんなふうに、人から人へと本が手渡されていくイメージを喚起してくれるようで、「旅をする本」という言葉を私は気に入っています。

「教員から生徒に向けて読書案内冊子を毎月発行する」というアイデアを教えてくださいましたのは、兵庫県にある灘中学・高等学校の木村達哉先生です。教員になりたてで、英語の授業の進め方や生徒との接し方がわからず途方に暮れていた私に、木村先生はご自身の方法論やそれを支える哲学を惜し

みなく教えていただきました。木村先生の授業を見せていただくために訪れた灘校の控室にて、「こういう取り組みをしてんねん」と先生が渡してくださったその冊子こそが、その後10年続く「旅をする本」という取り組みの直接のきっかけです。現在に至るまで、木村先生からは日々多くのことを教えていただいています。

木村先生からいただいたアイデアを自分なりに10年、実践してきました。これまでに書いてきた原稿を読み返し改めて実感したことは、「生活の傍らにいつも本があった」ということへの感謝です。そして、「読書を織り込みながら人生を編んでいく楽しさを少しでも伝えられたらいいな」と思い立ち、本書を作りました。

紹介される本の内容ではなく、紹介する文章の内容に応じてテーマ分けしてあります。どこから読んでいただいても構いません。「おもしろそう」と皆さんのアンテナが反応するところがあれば、まずはそこから目を通していただけたら嬉しいです。

心躍る本との出会いは、皆さんを動かし、人生の深いところに影響を与えていくと思います。本書が、皆さんと本とをつなぐ一助となれば幸甚です。

旅をする本——開こう、心おどる読書の扉 目次

はじめに 003

紡ぐ …… 言葉×物語 009

伝える …… 人間×ノンフィクション 029

暮らす …… 家族×鹿児島 059

学ぶ …… 学校×先生 091

訪れる …… 岩手・宮城×沖繩 123

日本自転車紀行・三陸海岸旅日記 146

働く …… 仕事×社会 157

考える …… 葛藤×哲学 177

想う …… 人生×共感 201

旅をする1 …… 世界×多様性 221

旅をする2 …… 日本×追憶 249

本を読むということ——卒業生から 275

追記——「旅をする本」というフレーズについて 277

おわりに 279

本書で紹介した書籍一覧 282

本書を購入する

開こう、
心おどる
読書の扉

旅
を
する
本

Akira Maruyama

Are you aware of "another" flow of time
while you go about your daily life?

丸
山
晃

ラゲーナ出版